

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393000753		
法人名	(有)百々		
事業所名	グループホーム百々鞍ヶ池 1階		
所在地	愛知県豊田市矢並町香沢1番地		
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町村受理日	令和5年6月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

慣れ親しんだ環境で自由に安心して過ごしていただけるよう、心がけています。花を飾ったり、畑仕事をする事で季節を感じ、味わっていただいています。3食職員手作りの食事を提供しており、食事作りも利用者様と一緒にいきます。

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2393000753-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2393000753-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年3月3日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは令和4年4月に新規に開設した事業所であるが、開設当初より、関連事業所(グループホーム百々豊田)と連携した体制づくりを行ってきたこともあり、両事業所間で協力関係をつくりながら円滑な事業運営が行われている。開設当初は、グループホーム百々豊田のサテライト事業所として開始しているが、令和4年11月からは、当ホームのリーダーが管理者に移行したことで、サテライトの関係から単独の事業所に移行している。ホームの日常生活については、利用者が一人ひとりが食事作りや洗濯物たたみ等、毎日の生活の中でできることに参加する機会をつくりながら、利用者の生活が前向きなものになるような支援が行われている。感染症問題が続いている状況でもであることで、家族との交流会等の開催や外部のボランティアの方等との交流については、今後のテーマでもある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	家庭的な雰囲気になるよう、心がけている。職員も家庭的な人が多く、自然とそうなり助かっている。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えながら、職員への周知が行われている。開設初年度のホームであるが、職員間で目標を考えながら、理念の実践にもつながる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍ではあるが、可能な限り外に出るようにしている。	地域の方との交流については、ホームからの働きかけを行いながら、地域の方にホームを知ってもらうような取り組みが行われている。現状は、近隣の清掃活動等に参加する等、可能な範囲で交流が行われている。	現状、地域の方がホームに訪問する機会が限られていることもあるため、次年度からのホームの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍であるため、外部との接触はできるだけ避けているが、withコロナも考慮し、ボランティアの方に来ていただくことも考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	より早く地域の情報を得ることができるので大変ありがたく、またお時間を割いてくださるので感謝している。	感染症問題が続いている状況でもあり、会議の開催については、現状は令和4年7月の実施となっている。地域の方や家族等、会議の関係者への働きかけを行いながら、会議の参加者を増やす取り組みが行われている。	ホームでは、構想通りの会議の開催ができなかった状況でもあるため、今後の状況をみながら、会議の開催の機会が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市からの情報をケアや職員のスキルアップに生かせるよう、共有している。	市担当部署との情報交換等については、関連事業所とも連携しながら行われており、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとの情報交換や介護相談員の訪問については、段階的に進めている状況でもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は防犯上しているが、いつでも誰でも開けることができるようになっている。利用者様が出たいといったときは付き添うようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、広いホーム内で利用者が自由に移動できるような配慮が行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会の実施や職員研修が行われており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	トイレ、入浴など身体を観察できるときはより注意している。また、内出血等あったときは介護記録に様子を書くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会は持ったが、対象者がいないため、実行までに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時は不明点、疑問点を尋ね、納得がいくまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の意見は普段の会話や生活の中から意見を聞き反映させている。 ご家族様からも面会時等に話を聞き、運営に反映させようとしている。	家族との交流については、面会等を実施する等、可能な範囲で交流が行われている。家族からの要望等については、管理者が把握し、内容に合わせて法人の幹部職員に報告している。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	家族が集まるのが困難な状況でもあり、家族との交流会が行われていない現状がある。家族にホームのことを知ってもらうためにも、今後の状況をみながら交流会の実現にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングをはじめ、日々の申し送りや会話をすることで意見を集め、検討させてもらっている。	毎月の職員会議や日常的な情報交換等が行われており、職員から出された意見等を管理者を通じて法人の幹部職員にも報告され、ホームの業務改善等につなげている。幹部職員もホームに訪問する機会をつくり、職員の把握につなげる取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自の得意分野を生かし、仕事に取り組んでもらえるよう、声掛けやサポートをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍により公の研修に参加することは難しいが、施設内で経験者による講習や社内研修等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍のため公の交流会などの参加は難しいが、コロナが落ち着き機会があれば参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族様より利用者様に対する思いや生活歴などお聞きしている。また、本人に対しても思いや要望をお聞きして信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族様が日々どのようなことで困っていたか、利用者様にどのように過ごし、生活してほしいかしっかり聞き取りし信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様と家族が何を望んでいるのか、どのようにしてほしいのかを見極め、相談し、日々のケアに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	信頼関係を大切にし、何でも話せる関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	信頼関係を大切にし、何でも話せる関係を築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設入所のため難しいこともあるが、馴染みの方が訪ねてきてくださるときは気兼ねなく過ごせるよう、対応している。	現状、外部の方の訪問等が困難な状況が続いているが、利用者の中には手紙等を通じて交流を継続する等、可能な範囲で支援が行われている。また、入居前からの生活習慣を継続する等、馴染みの方との関係継続につながる支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆が集まった際にはそのまま井戸端会議が開かれることもあり、それに入れていけるよう職員も間に入り関係を取り持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	まだしたことはないが、契約が終了してもそれまでの関係は大切にしたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中でいろいろと聞き出せるよう努力している。体力の違いや本人の思いを叶えられないこともあるが、叶える努力は続けていきたい。	職員全員で利用者に関する意向等の把握が行われており、利用者や家族に関する意向等の把握につなげている。また、定期的なカンファレンスも行われており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に聞いたり、本人より日々の会話を通じて把握している。疑問に思ったことなどはご家族に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活の中、家事手伝いや会話、レクなどを通してそれぞれの心身状態や現状を把握し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティングや職員同士の会話により気になることを話し合い、現在の本人にとって一番いい方法を介護計画に生かしている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にもタブレットの活用等も行いながら利用者の変化等をチェックし、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	いつもと違った言動があったときは必ず記録に残し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況を十分にくみ取り、お互い相談をして一番いい方法を見つけ、実践するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近くに公園はあるが、歩道がないため行くことをためらっている。天気の良い日は行ってみたいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に一度往診があるため、日々の情報を伝え、情報共有している。	訪問診療専門の医療機関と連携しながら、協力医との定期及び随時の医療面での連携が行われている。受診については家族による対応としているが、状況等に合わせた職員による対応も行われている。また、協力医療機関の看護師との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内に准看護師、看護師がいるため、何かあるときは相談している。同じことをかかりつけ医とも共有するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだないが、今後そうなったときはしっかり情報交換し、安心して戻ってこられるよう努力する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階で話はしているが、そうならないとわからないことも多いため、家族としっかり話し合い、家族と本人の望む終末期を過ごせるよう支援していきたい。	医療面での連携を深めながら、身体状態の重い方もホームでの生活を継続することができるような支援体制がつけられているが、現状は、看取り支援等の対応が行われていない。今後に向けて、利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応の訓練を行っている。いつ救急車が来てもいいように緊急シートも用意してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練も行っているが、実際そうなったときにしっかり動けるかまだまだ不安はある。	今年度は3回の避難訓練を実施しており、利用者の避難経路や通報装置の確認等が行われている。消防署の協力も得られており、非常災害に関する協力関係にもつながっている。開設初年度でもあり、備蓄品は段階的に整備を進めていくこととしている。	職員が2名になる夜間を想定した訓練の実施や断水や停電に備えた備蓄品の確保等、次年度に向けたホームの取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親密には無しながらも目上の方ということを忘れず、敬語を心掛けている。	日常の支援を通じて、職員が利用者への対応や言葉遣い等を意識するように、管理者からも職員への注意喚起等の取り組みが行われている。また、職員の接遇にもつながる研修を実施しており、職員の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	様子を見て本人と相談しながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団生活のため難しいこともあるが、基本的には本人の判断に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	きれいに清潔で気持ちよく過ごせるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる方には参加していただき、食事作りや準備を行っている。	職員間でその日にメニューを考え、利用者の好みや嗜好等にも配慮した取り組みが行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。また、季節に合わせた食事の提供やおやつ作り等、利用者の楽しみにつなげる取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	できない方には職員が介助を行う。その人に合う支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には声掛けを行い、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	それぞれの排泄パターンや排せつの失敗を把握。トイレ誘導などの支援を行っている。	利用者の排泄に関する記録に関しては、電子記録の他にも書面にも残しており、職員間で情報交換を行いながら一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に職員間で声かけ等の検討も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事面でできることを実践し、それでもダメなときは往診医に相談。薬に頼ることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	1日おきに入浴を実施。ゆっくり入っていたり心掛けている。	ホームでは、利用者が1日おきに入浴ができるように支援が行われており、時間も午前と午後に対応している。入浴を拒む方にも声かけ等を行いながら定期的な入浴につなげている。また、季節にも合わせた柚子湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一応声掛けはするが強制的なものではなく、本人に起きる、眠るの選択は任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋は誰でも見られるようになっており、気になることがあった場合には往診医や薬剤師に聞くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	それぞれの得意なこと、好きなことを把握し、積極的にそれが行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	コロナ禍なので外出・外泊はお断りしているが、できるようになったら家族や本人と相談して行いたい。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの近隣を散歩する機会をつくる等、可能な範囲で外出の取り組みが行われている。季節等にも合わせた外出行事も行われており、利用者の楽しみにつなげている。	感染症問題が続いている状況であるが、徐々に外出の機会をつくっている状況でもあるため、今後に向けて利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持することを禁止していないが、現在所持している人はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	今までそのような希望はないが、希望があった場合、ご家族と相談し希望に添えるよう支援したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気持ちよく過ごせるよう掃除を行い、温度調整している。また、季節を感じられるよう花を飾ったり、畑作業をしている。	ホーム内は全体的に広い空間が確保され、リビングにも全員の方が座ることができるソファを配置する等、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、季節感のある飾り付け等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方同士で過ごせるよう、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自由に使ってもらっている。本人、御家族と相談して好きなものを持ち入れ使用している。	居室には、利用者や家族の意向や好み等にも合わせた家具類や趣味の物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、ベッド及び特殊なセンサーマットが設置されており、利用者の見守りに活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	分かりやすいよう明示したり、声掛けしたりしている。		